

首斬浅右衛門 江戸愛戀篇 (八〇六米)

帝キネ時代映畫

原作並脚色者 橋本美沙夫

監督者 渡邊新太郎

撮影者 高橋武則

主演者 明石緑郎

松枝鶴子

紹介 第三百五十三號

扱ひによつては、もつと面白いものが出来たであらうと思はせる題材であるが、餘りに筋を運ぶことにのみ専心した結果、残念乍ら充分料理し切れなかつた感が深い。新進を以つて聞えた渡邊新太郎の作品としては少々お粗末である。浅右衛門とお銀との愛戀のもつれ、及び浅右衛門と佐分利との友愛は、もつと説明の必要があつたと思ふ。明石緑郎の浅右衛門は無難さとしても、餘は悉くお役目以上を出てゐない。松枝鶴子のお銀は、どうしても現代的の影が飛び出して困る。(何んさかいふお銀の踊りはお笑ひ草であつた)最後に「晝夜の區別がなさ過ぎる撮影者への苦言。」——鈴木重三郎——興行價值——帝キネ作品としては上の部かも知れない。餘り同社作品に接しない僕には、この映畫が東京で「好評映」した理由が判らないのであるが——。(一月廿二日、浅草帯盤座)